住まい活動助成

気仙沼家守舎

宮城県気仙沼市

銭湯上階をシェアハウスに改修し、初期移住と地域交流をサポートする活動





気仙沼家守舎のメンバー

団体設立経緯

まちづくりや観光などの活動を手がけている、東京や仙台から気仙沼へUIターン移住した4人を中心としたチームです。気仙沼の歴史・文化を残した遊休不動産やその周辺エリアの利活用（リノベーション、イベント企画など）を通して、地元住民・UIターン者・観光客（来訪者）など多様な「人のかけ合わせ」を日常的に生み出し、関わる人それぞれがまちに対しての主体性を育むきっかけをつくるため団体を立ち上げました。

活動概要と活動対象範囲

気仙沼市の中心市街地である古町・新町エリアは、東日本大震災による直接の津波被害を受けておらず、看板建築や建物の合間を流れる水路など、昔ながらの街並みが残るエリアです。その地域に位置する銭湯「**友の湯**」は地元住民の暮らしを支えてきた公衆浴場で、2階の個室風呂には港町が栄えていた頃の面影が残ります。気仙沼の歴史・文化を感じられる銭湯と周辺地域を活動対象範囲として、「人のかけ合わせ」によるコミュニティを実現できるようソフト・ハードともに施策を検討、実施しています。

活動に至った理由や背景

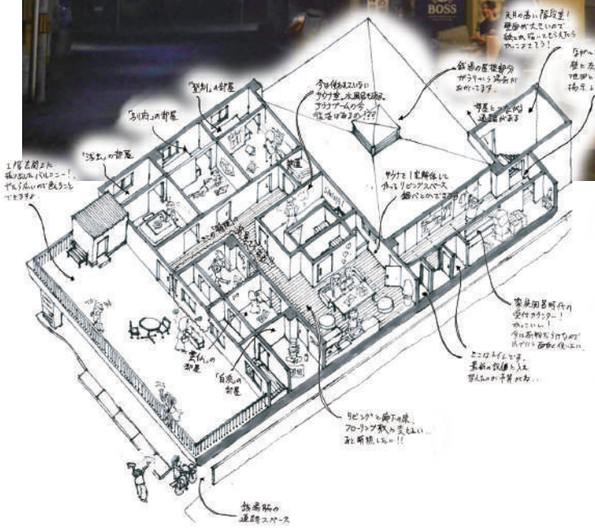
古町・新町エリアは、気仙沼駅から徒歩圏内に位置し、周辺には飲食店や旅館もある「町の玄関口」となっています。私たち自身がUIターン移住者であり、友の湯と周辺地域に対して地元住民・移住者・観光客（来訪者）が交わるポテンシャルを感じ、情報発信・来訪のきっかけづくり、建物のリノベーションを通じたエリアの価値向上に取り組みはじめました。

活動内容と成果

●ハード整備／「待合スペース」「シェアハウスモデルルーム」のリノベーション

今年度のハード整備として、1階銭湯部分のコミュニティ機能を強化することを目的とした**待合スペース**の整備と、銭湯上階の個室1室を**シェアハウスモデルルーム**として整備するリノベーションを実施しました。









市内の中心市街地に残る公衆浴場「友の湯」（**上の写真**）と、2階部分の図解イラスト（**左下**）。2階には風呂付き個室が6室あり、そのうちの1室にリノベーションを施した（**右下2点**）

待合スペースのリノベーションは、2019年10月の銭湯臨時休業期間に実施。主に気仙沼家守舎のメンバーが中心となって施工を進めつつ、イベント化した施工ワークショップの実施や地元建築関係者の協力など、これまで友の湯に足を運んだことがなかった層の人々が関わりを持つ機会となりました。

待合スペース整備以前の銭湯利用者は1日あたり10 ～ 15人程度でしたが、整備後は1日あたり30人以上の方が利用する日も増えてきています。利用者の中には銭湯入浴後に待合スペースでお茶を飲んだり、オーナーと談笑したりする方も現れました。居心地のよい空間として、リノベーションの一定の効果が出ていると捉えています。

銭湯上階シェアハウスモデルルームのリノベーションは、デザイン・設計の段階から、気仙沼家守舎メンバーと施工を担当する大工さんとが協業して実施しました。計画するに当たって特に重要視したのが、「銭湯の記憶を残したリノベーション」です。

銭湯上階の個室群は、以前は家族風呂として営業していた名残から各室に浴槽やタイル、配管などが残っています。これらの「銭湯の記憶」を最大限活用し、銭湯が日常にある風景を居室空間からつなげていくデザインとしました。具体的には、以前の浴槽部分を活かした書斎スペースや、配管を再利用した照明の設置などがあげられます。

今回のモデルルームは、既存建物の魅力を活かして入居者の生活スタイルに合わせて部屋をカスタマイズできる、この町のこの建物だからこそできるリノベーションの具体化を目指したものです。これを皮切りに、共用スペースや他の部屋についてもリノベーションを提案し、実施していきたいと考えています。

●イベント実施

2019年度のイベントは、7月5日に「**友の湯夕涼み会**」、11月26日には昨年度に続き2回目となった「**いい風呂の日**」を開催しました。2つのイベントに加え、毎月26日には気仙沼家守舎メンバーが番台に立ち、







2019年7月に実施した「友の湯夕涼み会」。銭湯の軒先で会話が弾む



11月26日に開催した「いい風呂の日」では、これまで友の湯に来る機会がなかった層の巻き込みに成功した







銭湯業務の手伝いやニーズ調査を含めた銭湯利用者とのコミュニケーションを図りました。また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で開催を見送りましたが、2020年3月27日には、通常営業時間以外の利用方法の可能性を探る「ミッドナイト銭湯」を実施予定でした。

「友の湯夕涼み会」は、市内の多数飲食店が参加する回遊型飲食イベント「気仙沼バル」と連動して企画。友の湯で入浴後に周辺の飲食店に繰り出す、“入浴〜飲食”という、“日常の動線を町なかに落とし込む”ことを意識して実施しました。

前年度のイベントは、銭湯休業日に建物全体を活用し実施しました。今回は営業日に銭湯の軒先で小規模に開催することで、常連客や近隣の住民などが気軽に立ち寄ったり、気仙沼バル参加者が顔を出してくれたりと、友の湯という場所を目指して人が訪れるのではなく、友の湯を取り巻く地域に人が回遊するという現象が生まれていました。

「いい風呂の日」は、10月にリノベーションした待合スペースがある番台を中心にコンテンツを展開し、銭湯がある1階部分と屋外空間を活用したものとなりました。建物内だけでは完結させずに、町に、面としてにぎわいが伝わるようなイベントを目指しました。

特に工夫したのは、イベントの企画段階から有志の市民に参画してもらう仕組み「友の湯企みナイト」を複数回実施し、気仙沼家守舎はファシリテーター的な立ち位置に徹する形でイベントを企画した点です。

地域のUIターン者などの若者たちを中心に、私たち気仙沼家守舎が企画したイベントに一参加者として参加するのではなく、自分のやってみたいこと・できることを銭湯を舞台に実施することで、友の湯を自分の居場所として捉えてもらうことができました。本イベントは、今まで友の湯に訪れたことのない多様な層の方々が友の湯を訪れる機会となり、さらに友の湯という場に自分ゴトとして深く関わる人を生み出す、という2つの側面を持つイベントとなりました。

上記の主催イベントに加え、東京都江戸川区から気仙沼市役所に出向している利用者の方が企画したイベント「お湯の富士がやってくる!」のコーディネートに協力しました。江戸川区銭湯組合のキャラクター「お湯の富士」と気仙沼市の観光キャラクター「海の子ホヤぼーや」が市内の銭湯を巡ることで、家族連れや観光客などの層のお客さんが友の湯を訪れる機会となりました。



2019年度に3回発行した「とものゆ通信」

●フリーペーパー「とものゆ通信」の発行

各イベントに合わせて、友の湯や町の魅力を発信するフリーペーパー「**とものゆ通信**」を計3回発行しました。友の湯以外にも市内の主要施設に配布し、多くの方々の手にお届けしています。

第1号「2019年夏号」では7月の夕涼み会に合わせて、前年度開催した「いい風呂の日」のレポートや友の湯がある古町・新町エリアの店舗・旅館などをまとめたマップ、友の湯の浴場部分を解説するアクソメ図を掲載しました。

第2号「2019年秋号」はいい風呂の日（11月26日）に合わせて発行。メンバーが運営に関わる、市内に新たに生まれた「鶴亀の湯」の紹介、夕涼み会の開催レポート、リノベーションのレポート、友の湯2階のシェアハウスのアクソメ図を掲載しました。

第3号「2020年冬号」では、今年度の「いい風呂の日」、「お湯の富士がやってくる!」、毎月26日に実施している「風呂の日」の番台体験記などのイベントレポートを掲載。さらに友の湯のオーナーを特集した記事や、周辺の飲食店を紹介する記事、モデルルームのリノベーションの設計図を掲載しました。

これまで3回にわたり発行している「とものゆ通信」では、銭湯としての魅力はもちろん、友の湯をとりまく「人」や「まち」にスポットを当ててきました。とものゆ通信の取材や執筆の過程で、改めて友の湯や古町・新町エリアの「かけ合わせ」が生まれる可能性を目の当たりにし、多くの方々にこのポテンシャルを認知してもらうためには、継続的な情報発信の必要があると感じました。

●その他（活動連携など）

今年度は市内のスーパー銭湯が閉業した一方で、魚市場前にトレーラーハウスを使った銭湯「鶴亀の湯」が開業。気仙沼の銭湯への注目度が高まったことにより、女性や観光客などの利用者も増え、友の湯を訪れる人が以前より多様になりました。

また、古町エリアの商店街や地域住民と、移住者をはじめとした市内の若者が交流する機会が生まれています。「友の湯」という銭湯そのものと、「古町・新町」というエリアに関わる人が少しずつ増加、多様化しています。

課題と解決方策

2階シェアハウスへの入居については、当初は全室のサブリースを計画していました。しかし、共用部分の設えの整理や入居者のコミュニティづくり、新規入居者の募集によって友の湯の運営を支援するという観点から、まずは気仙沼家守舎で1室を借りることをオーナーと協議しました。改装工事を施した1室については、2020年5月より入居を予定しています。

一方で、周辺の飲食店や宿泊施設との連携や周辺地域への活動の浸透については、関係性の構築はできたものの、企画の提案まで至りませんでした。これについては2階シェアハウスへの家守舎メンバーの入居により、日常的に地域に接する機会が増えることが期待できます。単発的なイベント実施による交流ではなく、日常生活のレベルで継続して地域と関わり、地域資源の発掘や周辺施設との連携など、できることの幅を増やしていきます。

今後の予定

「銭湯を日常に」する周辺住民が増え、オーナーの熱意を感じる場面が増えました。待合スペースやモデルルームのリノベーションなど、ハードの更新により友の湯の潜在的な可能性が、誰の目にも見える形で具体化したことも要因の一つです。公衆浴場という公的な場所であるものの、公的援助の少ない銭湯を地域コミュニティの力で維持したいと考えています。引き続き、銭湯シェアハウスを拠点としたコミュニティ形成に取り組みます。

気仙沼家守舎

2018年7月設立／メンバー数：6人／代表者：昆野 哲（こんの・さとし）
tomonoyu.kesennuma.1126@gmail.com

銭湯「友の湯」を中心とした気仙沼市古町・新町地区のコミュニティづくりを検討し、銭湯2Fのシェアハウスの整備、周辺物件のリノベーションなど具体的なまちづくり活動を推進しています。